

萩にあしあと残そうよ

「萩暮らしを終了し、帰郷。」

令和3年(2021)
9月20日発行
—第32号—
発行：大塚好一



龍蔵寺（山口市）
の参道で。9/7

「日々の暮らし」

九月に入ってからのは、日中は汗だくになることがあっても、朝晩は過ごしやすくなりました。稲穂が垂れ、彼岸花が咲く田園風景を眺めるのは気持ち良いものです。

さて、九月二〇日付けで、二年五か月勤めた岸田商會を退職しました。連休があったため一七日が最終日でした。突然のお知らせですが、きちんと準備していただきました。心配なさらないでください。二二日には帰郷開始です。残りわずかな日々は、つい欲張りの虫が出てしまうものですが、なるべくのんびり、いっつもどおりの生活を送るよう心がけました。

「あしあとノート」

◆後小畑町内会とお別れ◆

町内会の脱会について町内会長に電話をすると、とても残念がり「またぜひ戻っておいで」と言ってくれました。そして後日、直接会って挨拶しようとご自宅を訪れると「今夜は組長会議があるから、そこでみなさんに挨拶しなさい、あなたにも良い思い出になる」と。さすがに断りましたが、結局押し切られてしまい、集まった約四〇人の前でお礼とお別れの挨拶をさせていただきました。おそらく異例のことです。



椿八幡宮例祭（2019.10.13）
前列左に写っています。

◆引き継ぎ挨拶回り◆

チョンマゲビル営業の仕事と同僚に引き継ぐことになり、最後の一か月を週二日ずつ同行し、得意先等の挨拶回りをしました。後任のMさんは同い年、移動中の車内では仕事以外の色々な話もすることができました。他の担当を持ちながら私の業務を引き受けることで、彼には余計な負担をかけてしまいましたが、安心して任せられます。



市民ソフトボール
優勝（2020.10.18）

また別の日には、防災青年団長が役員数名に声をかけ、お別れ会をしてくれました。仲良くなれた年の近い先輩たちに囲まれて、和やかで楽しい時間でした。防災青年団に入ってからこそ、神輿担ぎや盆踊り・草刈りなどに参加して、多くの人と接する機会が得られたのです。

萩暮らしを総括して、この町内で生活できたことを、本当に良かったと思います。

◆お宿花南理の庭に宿泊◆



鯉の泳ぐ池の向こうが宿泊部屋。静かで落ち着けます。

萩に来てから親しくなった馬屋原（まやはら）さんが、自宅の一角を改装・増築して民泊を始めました。私はクラウドファンディングの応援者の一人です。コロナの影響で静かなスタートですが、体験宿泊させていただきました。

趣のある木造家屋で、今では採掘することができない、笠山の玄武岩を使用した風呂に大満足。自慢の庭園も独り占め。用意された萩の味覚も楽しめました。ご一緒した山影さんとは初対面でしたが、すぐに気が合い、素晴らしい出会いにも感激しました。



肌触りのよい、石造りの広い浴槽です。
雑誌記事風の写真。

◆青海島一周コース乗船◆

修学旅行の思い出の復習をするために、青海島観光汽船に乗船しました。この日は、外海が穏やかでないと実施されない「一周コース」が運航されることをホームページで確認し、「よしっ」と気合を入れた出かけました。



れいんぼう号。

船では、録音による紹介の合間に、船長からのアナウンスも入り、「海上アルプス」や「西の松島」などと称される変化に富んだ岩の芸術を、途中で船を旋回させたり、洞門を通してたりしながら、とても楽しませてくれました。



夫婦洞へ進入。船首から入り、後退して出てきます。

〔自由気ままな歌日記〕

新しい調味料を買うべきか
迷う引越し三週間前

(九月一日)

共に汗した仲間三人と

別れの麦酒次々に空く

(九月四日)

最終の一週間にも出会いあり
萩に残した成果

走る背に 離されるまい

離れまい スーパーマンに

出会えた朝は

(九月一九日)

◆感謝の思いを紙にこめて◆

松陰神社前の公衆トイレを
管理している萩公共サービスの
事務所を訪ね、ランニング
中の急場を助けてもらったお
礼に、トイレットペーパーを
受け取っていただきました。

経緯は本紙第三〇号の波間の
エッセイ『公衆トイレを使う
たびに』をご覧ください。

金額は千円に満たないもの
ですが、感謝の思いを形にし
ることができ、スッキリとし
た気持ちになりました。

◆秋吉台で雲海を目撃◆



予想外の光景にびっくり。

美祢市の友人宅に泊まった
翌朝、早く目覚めたので秋吉
台をドライブしました。日の
出を見るつもりでしたが雲が
多くて断念：しかし、まさか
の雲海を目にすることができ
ました。早起きは三文の徳と
はよく言ったものです。

◆人力車にも乗りました◆



橋本川沿い。

萩暮らしをする前から知り
合いの中原さんは、人力車を
引いています。いつも立ち話
ばかりなので、おまかせコー
スで乗せてもらいました。ま
だ知らないことばかりだな：
勉強になりました。

◆最後は末武さんに会いに◆

二〇日の昼過ぎ、いそ萬で
ご馳走になりました。野口雨
情の縁結びのおかげで親しく
なり、地方民謡の舞台を訪ね
歩くエネルギーは、末武さん
との楽しい語らいから得てい
たと思います。離れるのはと
ても寂しいですが、時々便り
を出そうと思います。



明神池を眺めな
がらのビール。

〔波間のエッセイ〕

『走りに求めていたもの』

朝のランニングも、六月以
降は月に十日を超える頻度で
取り組みました。入梅、夏至、
小暑、大暑、そして立秋と、
移りゆく季節を、朝焼けの空
や虫の声などからも感じなが
ら、清々しい時間でした。
散歩を日課にしている人も
多く、同じ人と何度かすれ違
ううちに、知り合いになれた
ような気持ちで挨拶をする自

分がいました。そして「この
人たちと会うこともなくなる
のか」と思うと少し寂しくな
るのでした。

体型や体力を維持したい、
適度に続けることで膝の故障
が出にくいといった理由もあ
りますが、継続の一番の原動
力は、人々と挨拶を交わした
いという気持ちだったような
気がします。おそらく、そこ
に「萩暮らしの実感」を求め
ていたのだと思います。

『並走する願いが叶う』

九月一九日、朝食後のラン
ニングで起きた素敵なハプニ
ングを紹介します。

この日、いつもの方向に走
っていくと、反対車線側をこ

ちらに向かつて走ってくる男
性の姿が見えました。咄嗟に
私は左右を確認して横断し、
挨拶するや「一緒に走ってい
いですか」と問いかけたので
す。驚いたでしょうが快諾し
てくださり、その人と並走す
ることができました。

なぜそのような行動をとっ
たかという、朝のランニン
グで何度かすれ違い、一度だ

け通勤時に会って挨拶したこ
とがあり、知り合いになりた
かったのです。つまり、共通
の趣味を持つ友達がほしかっ
たという訳ですね。

並走しながら、自己紹介に
始まり、日頃の練習の内容や
出場した大会のことなどを互
いに話しました。佐々木さん
は五八歳で、私の十歳先輩で
す。フルマラソンでは三時間
を切り、百kmウルトラマラソ
ンで優勝した経験もあるスー
パーマンでした。

一km五分を切るペースは、
普段の私の練習にはない速さ
ですが、佐々木さんの励まし
もあって、会話をしながら約
一時間(一二km程度)を楽し
く走ることができました。

萩暮らし終了間際ですが、
並走する願いが叶い、私たち
は友達になりました。お互い
にフェイスブックも使用して
いるので、今後も連絡を取り
合うことができます。



走りの後に。